

短梢せん定ブドウ園における鳥獣害対策

マジックテープ式の果実保護ネットによる被害低減効果の実証

1. 主な鳥獣被害



ブドウを直接加害する有害鳥獣として、ハクビシン、カラス、ニホンザル等が挙げられる。その被害は香りが強くなり始める7月中下旬頃から確認される。

特に、巨峰、ピオーネといった香りの強い品種ほど被害の程度が大きく、シャインマスカットなどの芳香の少ない品種は比較的被害が少ない。

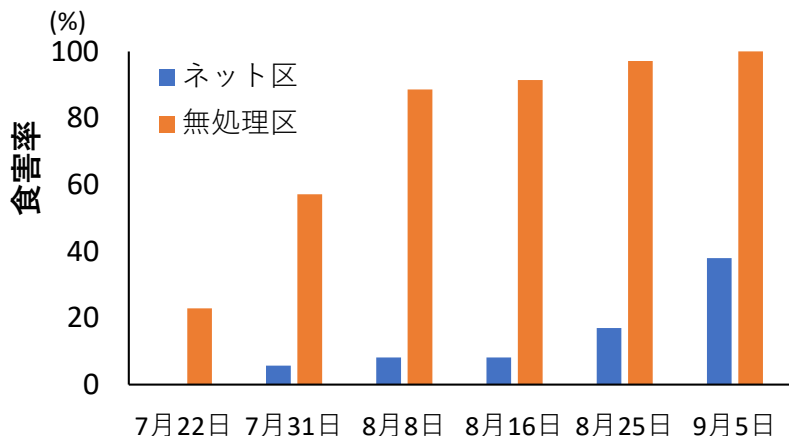
2. 保護ネット被覆による対策

(国研) 農研機構が開発した果実保護ネット (7月13日に設置) でブドウを被覆したネット区と、何も被覆しない無処理区を設置し、食害率の推移を定期的に調査した。



短梢せん定樹は、果房が一直線上に配置されているため、ネットの着脱が容易である。園地全体をネットで覆う場合よりも、作業時間の削減や設置労力の省力化ができる。

3. 袋状ネットの被害軽減効果



‘ピオーネ’の食害率の推移 (2019年)

☆注意点



果実保護ネットが噛み切られる場合もあり、被害を完全に抑えることはできなかった。

4. まとめ

果実保護ネットによりピオーネの食害率は、無処理と比較して約6割被害を軽減することができた。

しかし、ネットを破って食害する場合も確認されたため、電気柵など、他の手段と組み合わせた総合的な対策を講じる必要がある。